



Stories

長い耳

ぶにゃしめじ(文・絵)

待ち合わせの時間だというのに一向に返信の来ないDMに痺れを切らし、スマホの電源を落とす、ため息をついて見上げた屋外ビジョン広告には容姿端麗な女性が映し出されていた。広告内容よりも目立ってるんじゃない?と思うくらいに美しく、思わず目を奪われるような眩さを振りまいて微笑んでいる。薄く透き通るような透明感の肌、すらりとした身体、尖った耳。最近の広告はハーフエルフばかりだ。

長いこと伝説上の存在とされていたエルフが発見された、そう報道されたときにはどれほど世間が賑わったことだろうか。歴史の授業で聞いたことには、戦争になる

んじゃないか、なんて話もあったらしいが、そうはならなかったらしい。エルフは人間との共存を求めたし、人間はその美貌にすぐ心を奪われ、受け入れた。今では美人といえ長い耳だし、エルフの血が入っているってだけでモテる。エルフが現れる前のおばあちゃんくらいの世代には不評みただけで、トレンドなんてそんなもんだよね。

(あゝあ、パパかママがエルフだったら良かったのに)

こんなばやきだって何回思ったか分からないし意味だつてない。どれだけ念じたって私の丸い耳は伸びないんだから。

そんなことを思っていれば、手を振りながら近づいてくる長い耳の彼が居た。

「おまたせ! ごめんね、昨日充電するの忘れて電源切れてて……」

「別に……」

怒っているか否かといえは嘘になる。こっちが何時間待ったと思ってるんだか……じとりと彼をみれば目を逸らして自分の白い頬を掻いている。まったくしかたのない人だ。

「そんな掻いたら跡になるよ、肌薄いんでしょ、ハーフエルフって」

「え? ああ……そうだね」

「しょうがないな……今回だけだよ?」

ため息をついて腕を絡める。な

んだかんだいっても許しちゃうんだけね、ハーフエルフの彼女なんて逃すわけにいかないし。横断歩道を渡ってビルの隙間を通り抜ける。

路地裏のポスターにはひっそりと長耳整形の広告が張り出されていた。

なにもない

かなげつちよ

「テニスボールが一個見当たらんねえんだ。おまえ、見つけておけよ」

ボスのあいつが言ってきた。一人で掃除を終わらせ、帰ろうと校門を出たときだった。風邪をひいていたばくは、早く家に帰って休みたかった。数日前から学ランがなくなっていて、最高気温が一桁の中、ずっとワイシャツで過ごしていたのだ。でも、断ると何をされるかわかったもんじゃないし、家に帰ってもばくは邪魔者だから、結局あいつらの頼みを受けることにした。「互いを助け合える関係を築こう」だって? 笑わせるな。校門横に貼られたいじめ防止行動目標を見て、心の中でそう呟いた。

テニスコート周辺はもちろん、そこに隣接する校庭の植え込みに至るまで、学校の隅々を探した。しまいには、校舎裏の落ち葉が溜まった側溝に手を突っ込むなど、思い浮かぶ場所すべてを探しつくした。でも、ボールは全然見つからない。ばくは、垂れてくる鼻水をすすりながら校門に戻ってきた。昇降口の時計を見ると、とっく

に下校時間を過ぎていて、あたりは暗かった。仕方ない、帰ろう。ばくはすでに閉まっていた校門を開けようとした。が、開かなかった。よく見ると外鍵がかかっていた。ばくは閉じこめられてしまったのだ。



う思えてきて、目を閉じた。そしてなんと、ばくはそのままだで死んでしまった。

なんてあつけない

死なんだろう。今日みたいなあの日と似た夜は、いつも思い出す。妙な色のライトと紫みがかった青黒い空で、真つ暗

気味だった。

あれからばくは、この中学校から出られずにいる。いや、

次の日には校門は開いて、ばくは見つかつたんだ。けれど、未だにボールは見つからない。

ほんとはわかつてる。きつとテニスボールなんて最初からなかったんだ。でも、ばくには居場所がない。そもそも、ばくのことを覚えてる人なんて、もう誰一人いないのだから。

デジタルコミュニケーション

しらす井

二〇四〇年の春頃、オーストラリアから新種のウイルスが発見され大規模な拡散力とともに人々を襲った。それはレッドウイルスと呼ばれ、感染すると頭痛や吐き気、平衡感覚異常がみられる。重症化すると、長期的な高熱に苦しむ、最悪の場合は死に至る。特効薬はなく、瞬く間に世界中に広まり、人々を震撼させた。二〇四〇年以降の数年にかけて、ウイルス流行の波を繰り返しながら、新たな日常が定着していった。

二〇四五年現在、渡良瀬あずさは日本の大手お菓子メーカーの広報部に勤めている。レッドウイルス拡大後は一度も会社に出社し

ておらず、代わりにメタバース出社をする。レッドウイルス感染防止のために始まったメタバース出社だが、無駄な通勤時間を省ける利便性から、現在の新たな当たり前として広く受容され始めていた。ほかの会社では企業維持費を抑えるため、会社をなくすことも珍しくなくなってきた。メタバースでの言動はプラットフォーム上で半永久的にアーカイブ化されるから、みんな不用意なことはしなくなり、以前よりセクハラとかパワハラの問題は減り、こっそり仕事をさぼる人もいなくなった。もちろん、社員同士のコミュニケーションは不都合なく行え、映し出されるアバターはくつきりとしていて、肌のシワまで確認できる。わざわざアバターにシワや毛穴、シミをつけるわけがないのだから。

渡良瀬あずさが付き合う恋人は今野翼だ。社内メールのやり取りが度重なるうちに、仕事のミスをフォローし合う仲になった。二人が関わった企画書が会議で通った打ち上げとしてアバター通話をした際は、アバターのカッコよさに惚れこんでしまい、気づけば恋心を抱いていた。思い切って告白メー



大学随想

あまり知られないようにしているが、大学によくいる方である。熱心な方かといえはそうではなく、怠け者の度が過ぎると、大学にでも来なければ仕事にならないのだ。たとえば音楽の

授業で音色の違いを説明したところ、家でどうやらして楽器さえない。手には取らない。このままでは授業もおぼつかないから、しかたなく毎日、のよう

(片山耕一郎・文化領域・准教授)



俳壇

題「夜」

働かぬ者にも眠れぬ夜はあり

五味澤瞳

春の夜の夢の浮橋きみの方へ

藤原達也

夕立や「アメリカの夜」恋ひ余る

藤原達也

黒鳥が居眠りをする夜の池

遠藤耕太郎

降るたびに融けて縮まり夏の夜

上野慎也

ちびちびと隠れ家で飲む夜明け前

生駒桃子

故郷より霞んで見える夜の星

柏瀬心雪

山肌も頬紅を差す花月夜

大宮夜之

筆簾や聖夜に響動堂に満つ

菊地治子

ぷかぷかと夜に浮かぶる月団子

北川千冬

薄明を追い越す夜と酷寒

大田万宝子

ねっとり汗が張り付く熱帯夜

ナーサン

テーマ「食」

蕎麦食えば凶が四回深大寺

藜

二合半で新そば手繰る淡路町

藤原達也

夢を食む虫と好みぞ解夏の午

藤原達也

古九谷の金継ぎ碗に新茶汲む

菊地治子

可惜夜に湯豆腐囲み無二の友

菊地治子

君刻む大根の拍今朝も聴く

北村弥生

きびなこの刺身酢味噌に桜島

上野慎也

夜一時ほっと一息即席麺

佐野 Y

会いたいな初めて寿司を握ったあなた

五味澤瞳

受験生鍋焼きうどんと寝れぬ夜

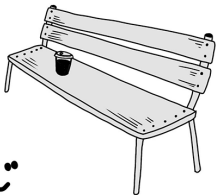
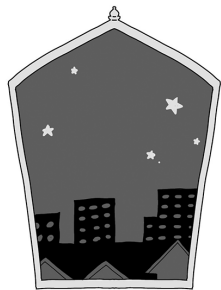
りんこ

星月夜銀河を味わう牛乳アイス

金賢梧

夜一人苦瓜食すが恋の味

青紫悠



ぶにゃしめじ

歌壇

題「海」

失った恋を探しに海へ行くそこにはなにも見えないけれど

花屋

この海が平家が滅んだ海だよあなたは言った煙となつて

アールグレイフィグ

寝転べば背中で海が生きていてフェリーで一泊眠れない夜

アールグレイフィグ

いくたびもみぎにひだりに水たまり新幹線が海を切り裂き

上野慎也

戦争を知らぬ子供の笑い声響き渡る美ら海水族館

大田万宝子

夕暮れで赤く染った海を見るまた来れるかなあなたはどうか？

こしひかり

娘からフェリーの写メール届きたり波立つ海や九州の風

湊一子

白兔社の丘の木の間より見ゆる海にも白波ぞ立つ

飯田さやか

春前の海の小径に流れ着きさくらのような海に佇む

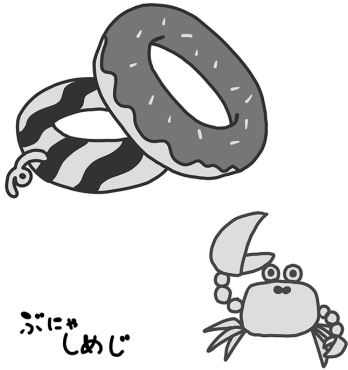
豊永真里江

友人と朝から散歩清々しダイヤきらめく山望む海

鈴木美織

夜明け前浜に並びて海で釣り父と本音で話せる時間

桐ノ江



ぶにゃしめじ

テーマ「色」

さくら色、ミモザのブーケ、ジェルネイルあの子も春に塗り替えられた

花屋

理不尽にあれやれこれやれ言うけどさ、知ってる？あたし、パンツ虎柄。

花屋

白黒をつけむと騒ぐ世界かな私は今日も青いのですが

五味澤瞳

真っ白なキャンパスみたいな世界からブーケのようなきみ色になる

こしひかり

真っ白な電車を見たと言ったよね君はおそらく連れて行かれる

惑星 E 人

あれこれと思ひめぐらせはかなしこの世に色のなからましかば

上野慎也

青色と見てもあるのは青いものならば色はどこにあるのか

上野慎也

とりどりの紙切り抜きて双喜紋春間近なるゼミを彩る

藜

黒髪の子が好きだちょっと待てやっぱこの子も気にはなってる

遠藤耕太郎

ひと雫葉末をころがり淡く濃く宝石の色手に受けてみる

黒須貴志子

上京し新たな色に染まりゆく君の瞳にネオン照り映ゆ

桐ノ江

涼む夏外には青葉と青い空手には青いガリガリくん

ナーサン



学部長から

お仕事ものの韓国ドラマを何本か見ているうちに、登場人物が頻りに足を運んでいる場所があることに気が付きました。屋上です。仕事がうまくいかずに思い悩んだ時、大きな決断をする時、同僚から特別な情報を得る時など彼らは屋上で気持ちを变えていきます。カメラは天空や眼下に広がる街の風景とともに屋上に身を置く主人公の姿をとらえ、小さな体の中で起こったわずかな変化がその後のドラマに大きなうねりを起こしていくことを暗示させます。

「ドラマ創作」という授業を担当してきた過程で、場所の選択が作品の大きな鍵になることを実感してきました。ドラマの世界だけではないのでしょうか。人がどこに身を置いか、置いてきたかは人生に大きく影響します。文芸学部での四年間を過ごして卒業していった皆さんの人々は今、どんな場所にいるのだろうか？と時折思いをめぐらすこともあります。

一方で宮藤官九郎のドラマ『あまちゃん』では「結局、場所じゃなくて人なんじゃないかなって思う」と主人公アキの母親である春子が口にする場面がありました。文芸学部という磁場は教員も助手も学生も個性的で魅力的な人間達を引き寄せてきたような気がしています。できればこれからもそうであってほしいと願っています。さて、あまり知られていませんが本館の屋上にはあがることが出来ます。季節によっては遠くの山が見えることもあり、気分転換におすすめです。

(芸術領域・教授 阿部由香子)



ブックタウンから
遠く離れて
☆☆☆☆

是枝葉々美

私がご紹介する旅先は、京都です。京都は、どの時期に訪れてもそれぞれの季節で違った表情を見せてくれますし、行くたびに新たな発見や体験ができる場所だと思います。何度訪れても飽きることありません。四半期に一回は必ず京都を訪れていたときがあったほど、京都旅行が大好きなのです。

交際10年目突破しました♡
毎日幸せです！

村田千裕

国内外問わず旅行が好きな両親のもとで育った私は、自分の意志に関係なく旅行している人生。海外だけでも30回以上はフライトしている。(冒頭からうるさい)このテーマを執筆するにあたり、ど



国内でも海外でも、(親のお金で式が出来るなら)どこでもいいのだ！結果、ハワイ婚：超々ヨカタ♡挙式当日は夫と交際9年目の記念日♡早朝4時からメイク開始。朝のビーチやダウントウン撮影のあと、いよいよ挙式！青い空、青い海、ダイヤモンドヘッドが見える好立地♡参

。そんな京都大好きマンの私からおすめしたいのが、12月上旬の京都です。(季節外れで大変申し訳ない...)「12月って何か特別見どころがあるっけ？」と思われそうですが、実はこの時期、京都は紅葉の時期でもあります。「紅葉」と聞くと、世間では11月下旬まで



を想像されるのではないでしょう。しかし、紅葉は12月上旬まで見ごろの時期で、混雑のピークも避けることができ、紅葉を鑑に行くのにもってこいの時期です。写真は、昨年12月に北野天満宮の「もみじ苑」を訪れたときの写真です。学問の神様でおなじみの北野天満宮ですが、秋になると

「みじ苑」の特別公開があり、あたり一面の紅葉を楽しむことができます。夜間ライトアップもっており、幻想的な紅葉の世界を堪能できます。京都へ行くいろいろな場所を巡るのについて、時間が失われがちですが、夜間特別拝観をしているスポットなどにも目を向けてみる

と、さらに充実した京都の一日が過ごせておすすめです。是非今年の冬の旅行にいかがでしょうか。かなり気が早いですが、万博の影響もありですので、早め早めの旅行をおすすめします！(決して旅行会社の回し者ではありません！笑)(文芸メディア領域助手)

名古屋でモーニング

千葉百々花

一昨年友人がジブリパークへ誘ってくれ、初めて愛知県へ。パークは長久手市の愛・地球博記念公園駅、電車とリニアモーターカーで名古屋駅から約1時間程のところにあります。ぜひ行っていただきたいので詳細は伏せますが、馴染みのある作品に触れることができ、ファンにとって



熱田神宮、ひつまぶしなど案内してくれました。朝食だとなかなか良いよと連れて行ってくれたのは、老舗の喫茶店コンパルというお店。平日の朝8時半に5、6組が待機していました。エビフライサンドが名物のこと、確かに多くのお客さんが選んでいる。ということで、迷わず注文しました。パンの中にはソース、キャベツ、卵、サクサクで大ぶりのエビフライ：美味しい！軽食に見えてボリュームがありました。レトロな店内も相まって、なんだか幸せで懐かしい気分。美味しい朝食を丁寧に、その日が良い日になる予感がして素敵な文化だな、と

たくさん埋まりました。全ては巡れなかったものの、ペースとしては丁度良かったです。一日に詰めるのもよし、楽しみを次回に持ち越すのもよしですね。

一緒だった友人は名古屋に詳しくないので、効率良く名古屋城、高尾山に登り隊！

小川瑛子

高尾山に登り隊！

新宿から電車にゆられておよそ1時間。東京の端に位置する標高599mの山が高尾山です。私が学生時代の文芸学部は1・2年生の講義が八王子キャンパスで開講されていたためなじみが深く、3・4年で神田キャンパスに移ってからもたびたび仲間たちと遊びに行っていました。

高尾山にはいくつかの登山ルートがあり途中でケーブルカーやリフトを使ってショートカットすることもできるため、ビギナーでもハイキング気分登山を目指すことができます。手作りのお弁当を持って山頂でピクニックも良い

心象点描

「この曲、私、知ってる」という入り口

北村弥生

クラシック音楽でいうコラールとは、十六世紀の宗教改革で作られた讃美歌をさす。覚えやすく歌いやすい単旋律の音楽だ。J.S.バッハのマタイ受難曲には、このコラールが多く取り入れられている。「あ、これは自分の通う教会でいつも歌っているあの讃美歌のメロディーだ」と聴者が自分の知っている讃美歌をきっかけにして曲全体に近い気持ちを抱くようにできている。その上、この曲には、問いと応えといった対話形式でコラールが組み込まれており、あたかも聴者自身が参加して歌っているかのような錯覚が生まれるようになっている。筆者は、「巧いこと作るなあ」と、復活祭が近づく度にひたすらこの曲に酔

いれていた。ある時、「待てよ」と思った。「この手の仕掛けこそはある種のアーキテクチャじゃないかしら」そう思い始めたのだ。アーキテクチャとは、ローレンス・レッシングという法学者に拠れば、人が当該制約を意識しなくても、ある特定の方向へ行動制約するように物理的にデザインすることだ。車の運転席に乗って少しでも酒気を帯びていたらセンサーが自動ブレーキがかかる。エンジンがかからない、というシステム設計はアーキテクチャの一例だ。「飲んだら乗るな」という規範を考える暇もない。同様に、マタイ受難曲全体の物語世界(キリストが磔刑にかけられるまでの苦行の道行き)へと、思索の暇なく聴者を促る楽曲の仕組みも、アーキテクチャと言えなくもないではないか。(写真は、英国の復活祭)



る必要があったという事情などが重なって実現したという人もいる。皮肉なことに、ドイツという国家は、その後別の歌に酔いしれて史上最大級の悲劇のアーキテクチャとなった。何にせよ、酔いしれる前に、どこに身体をもっていけるか知る必要がある。 (文芸メディア領域・教授)

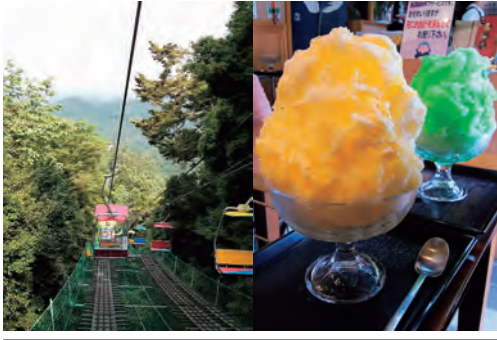
教員の異動

〈退職〉

土田 牧子 教授(芸術領域)
沼田 知加 教授(言語・文学領域)
深津 謙一郎 教授(言語・文学領域)

〈新任〉

井上 里 (言語・文学領域)
富永 真樹 (言語・文学領域)
和田 真生 (芸術領域)



次号の俳句・短歌
応募はこちらから

編集後記

公に募集してはいないので、が、学部報の編集を手伝ってみたい方はぜひわたしにお声かけください。また、イラストを描いてくださる方も常時歓迎です。 今号の俳句、題「夜」の作品もしくはテーマ「食」の作品を募集したつもりだったのですが、「夜の食」を投稿してくださった学生さんがたくさんいました。それはそれでまあよかったのですが...募集要項が誤解を招く書き方だったかもしれせん。次号では初めて題「テーマ」なしの自由な作品を募集するので、またどしどし応募ください。(福嶋)